

開会のご挨拶



後山 尚久 先生

大阪医科大学 健康科学クリニック

- 1979年 大阪医科大学 卒業
- 1981年 同大学産婦人科学 助手
- 1983年 国立鳥根医科大学第一生化学 助手
- 1989年 米国オクラホマ州立大学生化学・分子生物学
Physical Science II 部門 教官
- 1993年 大阪医科大学産婦人科学 講師
- 1996年 同大学産婦人科学 助教授
- 2003年 大阪市立大学女性病態学 非常勤講師(兼務)
- 2004年 The Editorial Board of American Journal of
Chinese Medicine
- 2006年 京都大学漢方医学講義 講師
- 同 年 藍野学院短期大学 教授
- 2009年 大阪医科大学健康科学クリニック寄付講座(未病科学・
健康生成医学)教授
- 同 年 日本東洋医学会関西支部 支部長

今年も例年同様、本東洋医学シンポジウムをもって第62回日本東洋医学会学術総会が始まります。

本シンポジウムも今年で18回目を迎えますが、シンポジストの先生方は例年にまして東西両医療の総力をもって診療を行っている医師ばかりです。この癒し人たちから現代医療における実践的な漢方医療の使い道を教授していただきます。臨床各科の医師からそれぞれの立場や専門的な目をもって「病者を治せる漢方医療」を紹介していただき、クロストークの中から、ベターな、さらにはベストな漢方診療を探求していきます。

今年も峯尚志先生にコメンテーターをお願いし、病者の立場、心の模様を診断し、証に組み入れるという得意の漢方医療をご披露していただくとともに、有益なコメントをお願いしています。

本シンポジウムの目的の一つは、皆様方の診療施設で治療を求める病者に、満足と希望を与えられる、少しでも質の高い医療を漢方の側から紹介することです。シンポジストの先生方による病者の個性を尊重、優先する個別医療の姿勢は、そのまま東洋医学のあるべき方向性であり、東洋医学を診療に組み込む努力こそ、真の医療の扉を開ける鍵であると信じています。

本シンポジウムに参加していただいた先生方全員に「病者を治せる漢方医療」の実践者になっていただくことを希望しています。